

■平泉澄 歴史学者。イデオログとして皇国史観を主導、<敗戦>後も直ぐに復活、多くのファンに迎えられた。
ひらいずみきよし
日清戦争終・1895＝ 福井県大野郡平泉寺村で、維新の廃仏毀釈による平泉寺白山神社の神官平泉恰合の長男に生まれる。
母は勝山藩士の娘貞子。

田中正造直訴1901＝ 6歳：龍池尋常小学校に入学。

日露戦争始・1904＝ 9歳：
日露戦争終・1905＝10歳：成器高等小学校に進む。

韓国反日暴動1907＝12歳：大野中学校に入学。
アヲヲ 創刊・1908＝13歳：二年生の級長となる。
この頃から、有賀長雄の日本歴史を読み始め、伊勢貞丈を読んで考証にも興味を抱くようになる。
大逆事件判決1911＝16歳：大逆事件に衝撃を受けて反革命思想抱き、十時進と学内から左翼過激思想を追放する意見書を校長に提出。
明治天皇没・1912＝17歳：優等賞として橋本左内の全集を贈られて卒業し、無試験の特典を得て、金沢の第四高等学校に入学。
大正政変・・1913＝18歳：「白山平泉寺史」をまとめる。
第一次大戦始1914＝19歳：歴史地理学会に入会。
21ヶ条要求・1915＝20歳：卒業し、東京帝大文科大学国史学科に入学。既に存在は際立ち、

ロシア革命・1917＝22歳：ロシア革命にも衝撃を受け、四高文科会で「国家主義者」宣言し、学会誌に論文を投稿し始める。
本格政党内閣1918＝23歳：国史学科首席最後の恩賜時計組で卒業し、黒岩勝美の指示で大学院に進む。史学会委員となり「日光東照宮史」編纂主任。ロマノフ王朝の旧皇帝一家の殺害には深刻な影響を受ける。
ハルビン条約・1919＝24歳：前年に結成された{東大新人会}に対抗すべく、養田陶喜らと{興国同志会}を組織し、リーダー格。
大暴落・・・1920＝25歳：森戸事件が起きると、森戸辰男の排斥に活躍、この事件を機に岸信介が脱会した際に慰留につとめる。
原敬首相暗殺1921＝26歳：文部省宗教制度調査囑託。森下逸子と結婚。
*卒論を敷衍した代表作「中世に於ける社寺と社会との関係」を著作。
関東大震災・1923＝28歳：大学院修了とともに、東大文学部講師。関東大震災で多くの史料や原稿を失う。
護憲三派圧勝1924＝29歳：長男が誕生。教化的になるとともに、入学してきた森(羽仁)五郎はじめ学生との対立が深まって行く。
治安維持法・1925＝30歳：西村真次「文化人類学」書評で、未開民族を歴史を持たざる人類と切り捨てる。輔仁寮の舎監となり転居。
円本時代始・1926＝31歳：「中世に於ける社寺と社会との関係」「中世に於ける精神生活」「我が歴史観」を刊行して新鋭の歴史家としての名声を確立するとともに、文学博士号を授与され、助教授となる。論文集「我が歴史観」。

金融恐慌・・1927＝32歳：次男が誕生。「神皇正統記研究」「国史学の骨髄」発表し、国粹主義的思想の理論化をし始める。
共産党事件・1928＝33歳：柳田国男から面前批判される。「国家護持の精神」をラジオ放送。海軍に招かれて軍部との関係が始まり、
世界恐慌・・1929＝34歳：三男が誕生。「日本史上より見た明治維新」発表。
海軍軍縮条約1930＝35歳：ヨーロッパに留学、ベルリンでマイネッケ、イタリアでクローチェを訪問、フランス革命の標語を研究。
満州事変・・1931＝36歳：帰国すると、駒込曙町に移住して、
五一五事件・1932＝37歳：*もっぱら国粹主義的・神秘主義的著作をするようになり、学内に{朱光会}を結成して、皇国史観の主導者となる。秩父宮に日本政治史を進講。昭和天皇への進講も実現し、政界上層部に名が広まる。

国際連盟脱退1933＝38歳：大アジア協会創立総会に招かれ、近衛文麿と会見。教えを請う者が急増し、学外に青々塾・松柏塾を組織。
満州を視察して帰国後、建武中興六百年記念事業に奔走、以降、全国巡回講演には一万四千人以上がつかけるほどになる。「武士道の復活」刊行。

芥川直木賞始1935＝40歳：建武中興の本義」刊行。黒板が退官して教授に昇格すると、国史学科や史学会にも影響力を発揮し始め、
二二六事件・1936＝41歳：「万物流転」刊行。二二六事件には先頭に立って反乱軍降伏説得に当たるも、皇道派黒幕として誤解され、内大臣湯浅倉平から嫌忌されて宮中から遠ざけられるもめげずに復活。独断で帝国議会の予算案件に国体学講座新設要求を盛り込んで、東大評議会に衝撃を与え、
満州建国大学設立に關与し、陸軍が宇垣一成を排斥するに当たっての意見書も起草。千早・存道館が竣工。

日中戦争始・1937＝42歳：開設された同講座の主任となる。
健保+総動員1938＝43歳：「伝統」刊行。内大臣がシンパの木戸幸一に替わって活動が一層活発化、近衛のラジオ放送演説を起草、
大政翼賛会・1940＝45歳：「菊池勤王史」刊行。海軍勅任囑託となる。
日米開戦・・1941＝46歳：「皇国正史」編纂に反対。「天兵に敵なし」刊行。翌年にかけて、皇族内閣樹立を画策。
創価学会検挙1943＝48歳：妹が死去。門下の陸軍若手将校による決起勧誘を退け、敗戦とともに、辞表を提出して郷里に帰る。
敗戦・・・1945＝50歳：帰郷直後から教化活動を再開し、早くも上京して青々塾で講義始。郷里でアメリカ兵の尋問を受ける。
新憲法公布・1946＝51歳：横浜第八軍司令部へ出頭。憂国の芸妓加藤房枝が指導を求めて来訪(彼女は翌々年一家心中)。
新憲法施行・1947＝52歳：(敗戦直後の皇族隠匿工作や過激派暴発抑制役を期待されたためか戦犯にもならず)ようやく公職追放。
三大事件・・1949＝54歳：雑誌{桃李}{芸林}発刊。

朝鮮戦争始・1950＝55歳：追放解除。出光佐三訪問を皮切りに、戦前と同じ立場で歴史家としての活動を再開、
独立回復・・1951＝56歳：「神道史研究」刊行。
メデ-事件・1952＝57歳：*銀座に研究所を開設。首相官邸で吉田茂らを前に天皇制を講演し、マッカーサー憲法放棄を唱える。千早・存道館鍛錬会を再開。皇學館大学の学事顧問に就任し、自衛隊などを中心に講演旅行を行うとともに、多くの著作をして行く。
TV放送始・・1953＝58歳：東京品川に移住。
自衛隊発足・1954＝59歳：教科書問題を契機に、各地の教育委員に門下生が任命されるようになり、日教組との対立激化招く。

伊豆半島・1958＝63歳：安保闘争・・1960＝65歳：
タイタイ病始・1961＝66歳：日本文化協会発足。「風流夢譚」事件を受け、「皇室の尊厳を守る立法」を請願。

美濃部都知事1967＝72歳：
霞ヶ関ビル・1968＝73歳：岸信介と会談。

大阪万博・・1970＝75歳：戦後の代表的著作「少年日本史」刊行。

石油ショック1973＝78歳：以後、講演旅行減少し、「荻窪会談」を{日本}に連載し始め、
角栄金脈辞任1974＝79歳：東京を引き払って、帰郷。
田中角栄逮捕1976＝81歳：この年、石井進の「中世社会論」で、戦後初めて初期の業績がアジール論から評価され、
成田衝突・・1978＝83歳：網野善彦も名著「無縁・公界・衆」で平泉のアジール論を肯定的に紹介、
革新大敗北・1979＝84歳：「少年日本史」が講談社学術文庫「物語日本史」として収録されると、異例の売行きで、なお隠れたファンの多いことが示された。

貿易摩擦問題1980＝85歳：「荻窪会談」の続編「擲筆余談」をまとめた自伝的作品「悲劇縦走」刊行。
中曽根内閣・1982＝87歳：妻逸子が死去。
・・・・・1984＝89歳：没した。
刀水書房「20世紀の歴史家たち1」、ミネルヴァ書房「平泉澄」、平凡社百科事典、